



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

呼びつ、呼ばれつ

お浄土に至る道を歩む

年末から年始にかけて、長年寺のためによく尽力されたご門徒の方々が往生を遂げられました。皆懐かしく、残されたご家族にとつて淋しさは格別だろうとお察し致します。

生まれた以上、いつか必ずこの世の別れがあることを思えば、死は決して「他人事ではない」と受け容れ、「早く後生の一大事」を心に懸けなければならぬと思わずにおれません。

「後生」とはずつと先の事ではなく、今、「今この私が命終わっても悔いはないか？」の重大問題です。言い換えれば「人間に生まれた甲斐があった」と胸に手を当てる本音で言えるのかどうか、が問われています。

約八年近い寝たきり入院の後に亡くなられた方(行年八十歳)は入院直前に早朝散歩の公園でお会いした時、「今では技術的に確立した手術ですから、また戻ってこれると思います。が・・・」と笑顔でお話されました。しかし、二度と会話もままならぬ身になられ、「無念であったらうなあ」とご本人の心情に思いを寄せました。



回復を信じて手術を受けたものの、その見込みが断られたのですから、ご家族の嘆きは如何ばかりのことでしょう。が、家族や親戚の人たちが語り掛け、本の読み聞かせをすると涙ぐんだり、微笑んだり、口元を動かすなどの反応が表れたそうです。言葉は出なくても耳はちゃんと聞こえているのだということが分かり、呼びつ呼ばれつの深い心の交流が続きました。

入院前の日記に「思えば幸せな人生だった」と心情を吐露し、家族や有縁の人々宛てに感謝の気持ちを綴ってあったことから、覚悟の上の入院だったのです。仕事の合間にお正信偈を写経したお軸が幾つか残され、「仏説阿弥陀経」の写経(紺地に金文字)も途中まで書き進めてあるほどの方でしたから、仏縁の深い人でした。

心境を密かに一句に託したメモ書きが残されていました。それは「晴れ晴れと浄土の旅は楽しかり」という法句で、まさしく「どうなるうと全てはみ仏さまにお任せ」の心ですね。

「歎異抄」を愛読しておられたそう

ですから、「念仏者は無碍の一道なり」と領解され、「お浄土に至る道」を懸命に生き抜かれたのです。涙、涙の中に、有縁の人たちも何やら清々しき表情のお見送りでした。弥陀の呼び声(お念仏)が届き、「お浄土があつてよかつたね」と私もお念仏申したことでありました。



写真アラカルト

上5時の鐘撞きの子供達
下:賑やかな令和初の「元旦会」

☆行事ご案内☆

◇2月の門信徒会例会

2月16日(日)夜7時半

- ①涅槃会(ねはんえ; お釈迦様の入滅)のお話
- ②善正寺の新年度に向けて
 - ・新しい行事編成表案(令和2年度以降)について
 - ・総代、世話方選挙(3月~4月実施)に向けて

《予告》春季永代経 3月14(土)15(日)両日後1時半

講師加藤学師(桑名) ※お経開き(招待者)14日前10時半

◇一縁会テレホン法話 TEL059・354・1454 18冊目新刊本

『仏さまから信じられている』発行、1/20~26若院3分法話担当

◇絵手紙教室 2月11日(第2火曜)前10時(52回目)

いつからでも入会OK、初心者歓迎、小杉郵便局展示

◇キッズサンガ 2月1日(土)後4時、夕方5時の鐘は年中無休、「ちかい」「ブツダが先生」「三つの約束」を全員で唱和

◇歌声喫茶(第3木曜)後1時庫裏食堂(11回目)

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索1年分寺報閲覧

毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評、開設11年6か月で31万1千訪問、お悩み相談も可、即返信

◇新納骨堂:後継者のない方、お墓で困りの方ご相談下さい

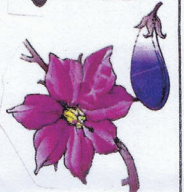
◇法事場所でお困りの方:本堂使用可。寺にご相談下さい。



坊守スケッチ



親の意見と茄子の花は千に一つの無駄はない



今年温暖化の影響で、雪の少ない暖かな冬です。しかし私は年齢と共に厚着になります。登校する小学生の孫に「そんな薄着だと風邪を引くよ」と注意すると、「大丈夫！これでも運動すると汗をかくから」と一向に無関心でした。

昔、私の独り暮らしをしていた母が、これ以上重ね着できない程に厚着をしていたので「雪だるまみたい」と笑いました。「お前も歳を取ったら、分かる時が来るから」と一言だけ返って来ました。今私が当時の母の年齢に近づくとつれて、母の心境が分かり始めました。

「そうか、母は一人暮らしなので風邪を引いても誰の世話にもなれない。自分で自分の身を守る母なりの予防策だったのか？」と思えるようになりました。「疲れたら一寸横になると楽になる。頑張り過ぎて血管が切れる前の予防策だよ」の忠告どおりに、近頃の私は何か仕事をすると、「ああ、一休み」と言いつて休憩します。以前ならば多少の疲れも気にせず、我武者羅に頑張りました。

他にも母の忠告を実行したのが、「早朝散歩とラジオ体操」です。早朝散歩は垂坂山という絶好の楽園を見つけてからは、かれこれ20年以上通い続けています。四季折々の自然にも触れて、運動と心の休養で恩恵を受けています。もし私が母の忠告を実践していなかつたら、今頃は医者のはしこをして、愚痴と嘆きの毎日だったかもしれませぬ。「親の意見と茄子の花は千に一つの無駄はない」という格言があります。茄子の花が咲くと、全ての花に実がつくように、親が子を考えて意見することは、必ず役に立つからよく聞けという意味です。

誰しも大体、親の意見の有難さに気がつくのは、親が亡くなつて自分も親と同じような年齢に近づいてからです。そんな時にお礼を言つても遅いかもしれませんが、せめて私も子や孫に、生きる上で大切な教えを伝えられるバアちゃんでありたいと思います。

寄稿

子らの声落葉の山の五つ六つ 釋榮邦
散歩する頬をかすめて落葉散る 釋妙水
熱燗や指先伝い心身へ 釋妙水
初泳ぎ体軽やか進みけり 釋妙水
独り居は願ひ事八つ書初めし 釋妙水
初乗りやローカル線の客まばら 釋妙水
とぐる巻く首にぐるぐるマフラーかな 釋清風

第九の夜歓喜高鳴る年忘れ 釋清風
初日の出茜に染まる伊勢の海 釋清風
着飾りて姫のごとくの元旦会 釋清風
描初めの筆すいすいと微笑みて 釋清風
蠟梅の香り床しや我が師恩 釋清風
懐手解きて蕾の紅きかな 釋清風

5人のいとこ達が勢揃い 毎日仏様にお参り

☆若院夫婦の「育自な日記」62
年末年始のゆっくりとした(だらだらとした?)時間が過ぎ、日常に戻ってきました。子どもたちも新学期です。短い冬休みの間、我が家で流行っていた遊びをご紹介します。
まず長男(小2)は、主人と室内野球ばかりしていました。主人がピッチャー、長男がバッターです。書道教室に使う広い部屋で、座布団をベースに見立て、プラスチックのバットとボールで対決です。もともと野球好きの主人にルールを教わり、何点取った!と喜んでいます。お年玉で「もつとうまくなる少年野球」という本を買ってくるほどのほまじりようです。いつまで続くことやら?
一方、長女(年中)はお人形を並べこつこ遊びをよくしていました。図書館こつこ、スーパーこつこ、幼稚園こつこ、など。図書館こつこでは図書館の係の方の動作を忠実に再現して笑っていました。幼稚園こつこでは先生になりました。お遊戯会の練習ですよ、並んで! などとお人形に話しかける様子はなんと面白いです。たまに主人も巻き込まれ、しびしび付き合っています。
一年のまとめとなる三学期です。しっかり頑張つてほしいと思います。



- 令和2年度善正寺主な行事案内
- ☆春季永代経 3月14(土)・15(日)
 - 両日共午後1時半・講師加藤学先生
 - ☆仏壇初参式&障壁会 4月18(土)
 - 後1時加藤幸子先生 赤ちゃん募集
 - ☆善正寺門信徒総会 5月17日 午前10時
 - ☆玉蘭盆会法要 8月14日 午前8時半
 - ☆秋季永代経 8月15(土)・16(日)
 - 両日共午後1時半 加藤正人先生
 - ☆報恩講 11月2日 午後と夜・3日 午前と午後 仏壇報恩講守快信先生(滋賀)
 - ☆秋勤進 11月23日 午前8時
 - ☆お内仏報恩講 12月5日 土 午前10時半
 - ※第3日 曜日夜7時半 門信徒会例会
 - 謹んでお悔み申し上げます
 - ☆伊藤正雄様 東郊区 12月29日 89歳
 - ☆藤野香苗様 別名 1月3日、80歳
 - ☆川崎勉様 小杉 1月4日 81歳
 - ☆服部政子様 富田 一色 1月17日 92歳
 - カンパありがとうございます
 - 石田美彌子様、富田和代様、高木重明様、広田伊久枝様、木田みき様、館敏彦様、緩詰富美世様、樋口勝彦様、服部政樹様、服部照子様、他匿名様より
 - ホットニュース
 - ◇4月18日(土)後1時三全仏婦主催 初参式の赤ちゃん・幼児を大募集。千円子供は地域の宝、皆で育てましょう!
 - ☆ 編集子より ☆
 - 「善正寺だより」314号をお届けします。◇寒い時期なのに、この暖冬は不気味。地球の温暖化がかなり危ない状況になりつつあるのかもしれない。文明の弊害を嘆いても逃れ難き? 合掌。

お正月を挟んで四人のご門徒さんが次々にお浄土に還られました。各々が善正寺に貢献して下さいました。本堂にその方の指定席がぼっかり空くのは残念でなりません。思い出の写真が本堂に掲示されて懐しさが込み上げます。謹んでお悔みを申し上げます。ところで「最近は何家族葬なのでお参りしたら迷惑がかかる。だから遠慮するが今まで親しくしていたのに最期のお見送りができないのは淋しく心残りがする」という声をよく聞きます。私はできる限りご門徒さんのお通夜や葬儀には参列させて頂きます。弔いは人類が古代から営々と築いてきた人間だけに許された尊い行為です。現代人がお力ネと手間を惜しんで誰にも迷惑をかけたくないと、ひっそり家族葬や直葬で済ますのは寂しい限りです。TVでは葬儀社のCMが堂々と価格競争を唱え、インターネットで申し込む人もいます。ペットの葬儀の方が涙を流し手厚く弔ってもらったという皮肉な例もあります。ある葬儀で孫さんが大好きなお祖父ちゃんのお棺を担ぐ姿を見て感動しました。彼は葬儀の場を通して祖父の歩んだ人生の重さを知り、祖父の願いをしつかり受け取ったような気がします。「相続の相しはすかた」という意味です。故人が残された者に何を伝え、私が何を気付かせて下さったかを受け取る葬儀でありたいものです。2月の例会は新年度の新行事表について説明します。皆様のご意見をお聞かせ下さいませ。合掌

令和二年二月善正寺坊守様